

6章 進行性病変

進行性病変とはある細胞、組織、臓器が障害された場合、正常な活動を維持するため、周囲の細胞が変化(肥大など)すること。

①肥大

右心室肥大: 肺の病気が原因

左心室肥大: 大動脈弁が狭くなった病気(大動脈弁狭窄症)、血管が狭くなった病気(高血圧)が原因

代償性肥大: 2個ある臓器(腎臓、副腎など)の片方が働かなくなったときに発生(例外 肝臓)

仮性肥大: 進行性筋ジストロフィーの腓腹筋(筋細胞は細くなるが、脂肪がついてくるため肥大したように見える)

②再生

生理的再生(完全再生すること): 皮膚・髪の毛・粘膜上皮(消化管など)といった空気に触れる組織、赤色骨髄(造血細胞がいるため血液を盛んに作る)

病的再生(不完全再生or完全再生): 外傷、疾病による欠損部

再生能力

再生の最も盛んな組織: 皮膚・髪の毛・消化管などの粘膜上皮(空気に触れる組織)、赤色骨髄(造血細胞がいるため血液を盛んに作る)

再生しない組織: 神経細胞、心筋細胞

③化生: 再生するときに別の細胞に変化したもの。これは環境に合わせた適応現象と考えられている。

扁平上皮化生が多い。(例外: 胃は腸上皮に化生する)

④移植

自己移植(自家移植)は自分の細胞、組織、器官を自分の体に移植すること。

同系移植は提供者と受容者とが一卵性双生児の場合の移植

異系移植は提供者と受容者とが遺伝的に異なる者の場合の移植

異種移植は動物の種が異なる場合の移植(ブタ→人)

*拒絶反応(移植片対宿主病など)はキラーT細胞が関与している

拒絶反応

ない

ない

ある

ある

生着率

高い

高い

低い

低い

⑤創傷治癒

小さい傷・・・肉芽組織(線維芽細胞、毛細血管とマクロファージで構成)→元に修復

大きい傷、やけどなど・・・肉芽組織→瘢痕(肉芽組織のマクロファージ、線維芽細胞が去り、毛細血管が細くなったもの。線維芽細胞が作った膠原線維のあつまり)

*ケロイドは大きな瘢痕のこと

⑥異物の処理

組織内異物の処理方法の名前を3つ覚えること(カッコ内の説明は覚えられなくてもOK)

1)排除(取り込み・・・吸収、食べて(炭粉など)・・・貪食、溶かす・・・融解)

2)器質化(血栓などの場合→すぐに排除できないので肉芽組織で覆う→徐々に血栓を融解、吸収→血栓があった部分を膠原線維で埋めて瘢痕にする)

3)被包(ナイロン糸、折れた鍼、鉋物、などの場合→肉芽組織で覆う→融解しない! 吸収できない! →線維で肉芽組織を包む)